

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 サデクア シャールク

Sadequa Shahrook

本研究において、学校における学生の健康診断 (the Global School-based Student Health Survey)の2次データを用いて、5つの地域(アフリカ、アメリカ、地中海東部、アジア)にわたる30カ国の発展途上国での若者による喫煙、禁煙の試み、副流煙への暴露の頻度、および、喫煙、禁煙の試みの予測についての解析を行った。このデータは、2003年から2008年にかけて二段階の抽出によって選ばれた第6学年から第10学年の生徒の自己記入質問書から集められた。解析は13-15歳に限り、region-wise ロジスティック回帰分析を行った。多くの国で男女いずれの場合にも高頻度での喫煙が行われていることが明らかになり、特に南アメリカ大陸の国々若い女性において顕著であった。そして全ての地域において、若者は頻繁に副流煙へと晒されていた。若者の喫煙と禁煙への試みに関連する因子は地域によって異なっていた。発展途上国ではタバコ規制に関する法律の適応、履行、そして効果的な実施がほとんど行われていない。本研究による喫煙

と禁煙への試みの地域的な要素を見出したことは、地域特異的なタバコ規制への医療介入に役立つと考えられる。国際的に協調した、タバコ規制に関する政策の適応、批准、実施が、特に喫煙と副流煙の暴露の頻度が高い国において、緊急に必要と考えられる。

結果を要約すると、

1. 年齢で補正した若者の現在の喫煙率は男性が 1.91% (インド) から 27.3% (チリ)、女性が 0.21% (インド) から 35.6% (チリ) であった。女性の喫煙率が 20% 以上の国は、チリ、コロンビア、アルゼンチン、ウルグアイであり、すべて南アメリカの国々である。
2. 現在の喫煙の回帰モデルにおける要素として、両親の喫煙、アルコールおよび薬物の摂取、不安による不眠、トラブルや心配事に対する両親の不理解がほとんどの地域での高確率での喫煙に関連していた。
3. 若者の喫煙者内での禁煙の試みの回帰モデルにおける要素として、女性であること、高頻度の喫煙、若い年齢での最初の喫煙がほとんどの地域での禁煙を試みない傾向に相関していた。

4. 年齢で補正した、喫煙しない若者間での副流煙への暴露の頻度は 36.5% (インド)が

ら 84.6% (インドネシア)であった。

5. 多くの発展途上国でのタバコ規制に関する法律の履行は、施行や効果的な実施と同様

に国の規制によって強く妨げられている。

本博士学位論文は、タバコに関する研究において必要とされる知識の充実、特に若者のタバコの消費と将来のタバコの蔓延の拠点になると予測されている発展途上国地域についての知見の蓄積と充実に大いに貢献し、新たな対策を検討する基礎を築いた。

よって、本博士学位論文は学位の授与にふさわしいものである。